475　不整脈源性右室異形成症における左室心筋のI-123 MIBG欠損像の特徴

高橋延和，石田良雄，前野正和，下永田剛，広瀬義晃，外山卓二（国循セン、放診部）西村恒彦（阪大トレーサ）

不整脈源性右室異形成症(ARVD)は右室組織の脂肪浸潤および線維化が特徴であるが、ARVDの3症例にI-123MIBGおよびT1-201心筋SPECTを実施したところ、全例にて左室心筋のMIBG欠損像が観察された。3例共に右室拡大と右室駆出率低下を認めたが、左室機能は正常であった。しかし、MIBG欠損/T1正常型（A型）、MIBG欠損/T1欠損型（B型）の各異常所見が、2例では心基部中隔（A型1例、B型1例）に、他の1例では心尖、側壁（A型）に認められ、右室近接部だけでなく遠隔部左室心筋にMIBG欠損が観察された。以上より、ARVDの病態への局所心筋交感神経機能障害の関与が示唆されるとともに、I-123 MIBGはかかる心筋異常の進展を評価するのに有用と考えられた。

Presented by Medical*Online